

CHOFU 形名 RA-2237PV インバータルームエアコン
RA-2537PV
RA-2837PV **据付工事説明書**
RA-4037PV

安全上の注意

- 据付工事を行う前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付けてください。
- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- 絵表示には次のような意味があります。
- | | |
|--|------------|
| | 一般的な禁止 |
| | アースを接続すること |
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取扱説明書に従ってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
 - 別添えの保証書に必要事項を記入のうえ、この据付工事説明書・取扱説明書と共にお客様に保管していただくようお願いください。
 - 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

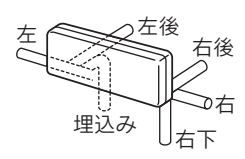
警告

- 据付けはお買い求めの販売店または専門業者に依頼する。お客様ご自身で据付工事をされ不備があると、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・ユニットの落下の原因になります。
- 据付工事はこの据付工事説明書に従って確実に行う。据付けに不備があると火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・ユニットの落下の原因になります。
- 据付工事は必ず付属品および指定部品を使用する。当社指定部品を使用しないと、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・ユニットの落下の原因になります。
- 据付工事はR410A用に製造された専用工具・配管部材を使用する。使用しているHFC系新冷媒(R410A)は、従来の冷媒に比べて圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しないと破裂やガス漏れの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは重量に充分耐えられる場所で確実に行う。強度不足や取付けが不完全な場合は、ユニットの落下によりけがの原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格があるかたが「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。電源回路容量不足や施工不備があると火災や感電の原因になります。
- 配線は所定の内外接続電線を使用して確実に接続し、端子台接続部に内外接続電線の外力が伝わらないように確実に固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。また、電源電線および内外接続電線の中間接続は行わないでください。
- 電源電線および内外接続電線は必ず単線を使用する。より線は絶対使用しないでください。電源供給や信号伝達ができず動作不良の原因になります。
- 内外接続電線を接続後は配線カバーとコード止め金具で内外接続電線を確実に固定する。接続が不完全な場合は、端子台接続部の発熱・火災・感電の原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。冷媒ガスが室内に漏れてファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配線の加工、途中接続、延長コードの使用、また電源コードを束ねたり、たこ足配線はしない。接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災や感電の原因になります。
- フレアナットはトルクレンチで、指定の方法で締付ける。フレアナットの締付けすぎがあると、長期間経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなくコンセント側にもほこりの付着・つまり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。ほこりの付着・つまり・がたつきがあると、火災や感電の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- アース工事を確実に行う。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は故障や漏電のときに感電の原因になります。
- 漏電遮断器を取付ける。(RA-4037PVのみ) 漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 冷媒配管はJIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅を使用し、配管接続を確実に行う。
- 指定冷媒以外は使用(冷媒補充・入替え)しない。機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。

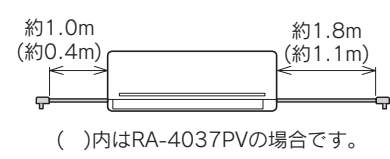
注意

- 設置場所によっては漏電遮断器を取付ける。(RA-2237PV・RA-2537PV・RA-2837PVのみ) 漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。
- 油煙の多い場所、油成分が浮遊している場所、可燃性ガス・腐食性ガス・金属製のほこりがある場所には設置しない。万が一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、火災・事故・腐食の原因になることがあります。
- ドレン工事は据付工事説明書に従って確実に排水するように配管する。不確実な場合は室内に漏水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管をアンモニアガスやイオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れない。下水ガスが逆流し配管や機器が著しく腐食して、水漏れや故障の原因になることがあります。
- 機器は小動物のすみかになるような場所に設置しない。小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると発火・発煙・故障の原因になることがあります。またお客様に周囲をきれいに保つことをお願いしてください。
- 機器の吸込口やアルミフィンに触らない。けがの原因になることがあります。
- 作業時は手袋などの保護具を着用する。部品などによりけがの原因になることがあります。
- 家庭用以外には使用しない。事故の原因になることがあります。

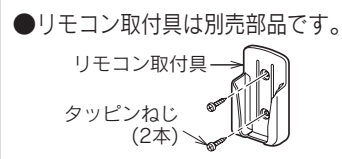
配管引廻り方向



電源コードの長さ



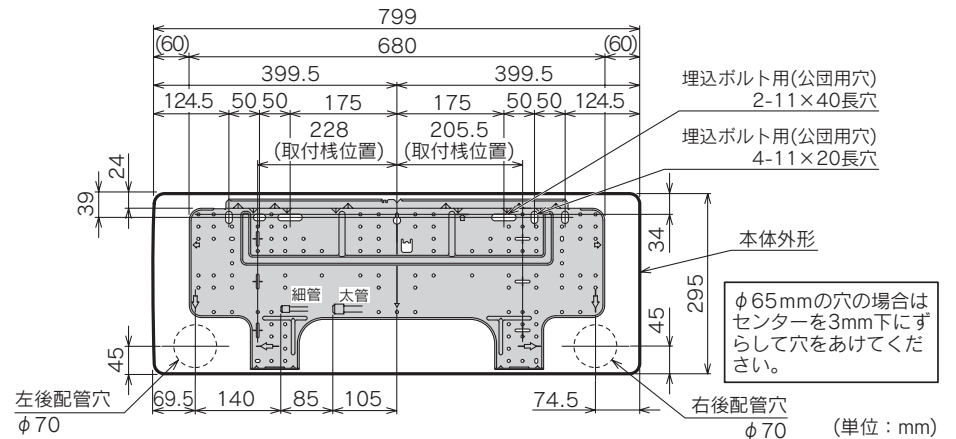
リモコン取付具の取付け



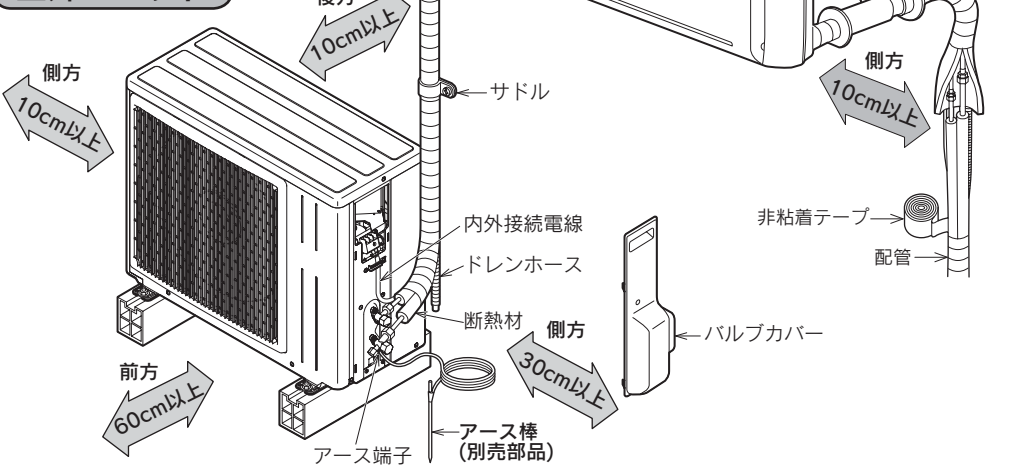
室内外ユニットの据付図

室内ユニット

室内ユニット取付寸法図



室外ユニット



- 壁面・屋根・屋上に取付ける場合は地震・強風などを考慮し、据付台を釘や針金などで確実に固定してください。
- 振動が家屋に伝わるおそれのある場合は、別売の脚防振ゴムを使用したり、防振マットをはさんだりして固定してください。

付属品の確認

- 梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

付属品	個数	付属品	個数
リモコン (保護シールをはがす)	1	配線カバー	1
単4形乾電池	2		
ドレンエルボ	1	タッピンねじ φ4×25mm (取付板用)	6
取付板	1	タッピンねじ φ4×16mm (配線カバー用)	1

別売部品

リモコン取付具	配管セット
タッピンねじ(2本)付 φ4×12mm	配管セット 配管着テープ 非粘着テープ 粘着テープ サドル(ねじ付) 内外接続電線 (VVF φ2.0mm・3心) ドレンホース 断熱材 配管穴ふた 配管穴用パイプ パテ
脚防振ゴム	
壁掛けやベランダ設置時にご使用ください。	アース棒

冷媒配管の選定

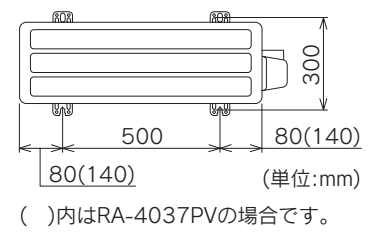
- 配管は液側・ガス側配管とも低温になるため、2本とも断熱処理が必要です。
- 配管は別売の配管セットを使用するか、同等の断熱材付のものを使用してください。

参考：液 側管径 φ6.35(1/4") 肉厚0.8mm
：ガス側管径 φ9.52(3/8") 肉厚0.8mm

- 冷媒配管の長さは12(15)m以下、高低差は8(10)m以下になるようにしてください。冷媒の補充は不要です。()内はRA-4037PVの場合です。

室外ユニットの固定用穴位置

- コンクリート、または丈夫な台にボルト(M10)とナットで強固にかつ水平に固定してください。



電源工事

警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。

- 電源は機器の定格電圧に合った専用の電源回路を設けてください。電圧を間違えると機器が破損する原因になることがあります。コンセントに差し込む前に、必ずテスターで電圧を確認してください。
- 室外ユニットを水気のある場所に設置する場合は必ず漏電遮断器を設置してください。その他の場所に設置する場合もできるだけ漏電遮断器を設置するようにしてください。※RA-4037PVの場合は必ず漏電遮断器を設置してください。

機種	定格電圧	コンセント定格・形状
RA-2237PV RA-2537PV RA-2837PV	単相100V	125V 15A ㉑
RA-4037PV	単相200V	250V 15A ㉒

- ユニットを充分支えられ、振動の出ない強度のある場所
- 近くに熱や蒸気の発生がなく、吸込口・吹出口付近がふさがれない場所
- ドレン排水が容易にでき、室外ユニットとの配管接続が容易にできる場所
- 冷温風が部屋全体に行きわたる場所
- 「室内ユニットの据付図」の◀印の間隔があげられる場所
- テレビ・ラジオ・無線機・蛍光灯から1m以上間隔があげられる場所
- 工業用マシンなど高周波ノイズを発生する機器のない場所
- リモコンを壁に固定する場合は部屋の蛍光灯を点灯させた状態で、室内ユニットが信号を受信できる場所
- 吹き出した風が燃焼器具の燃焼に影響しない場所、動植物にあたらない場所
- 油の飛まつや油煙がたちこめない場所(調理場や機械工場などは避けてください。)
- 吹出口が火災警報装置器から1.5m以上離れている場所
- 船舶など移動するものには設置しない
- 下や近くに濡れて困る物がない場所

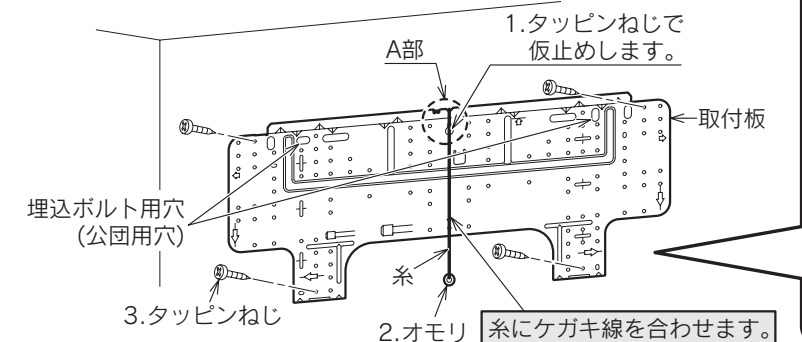
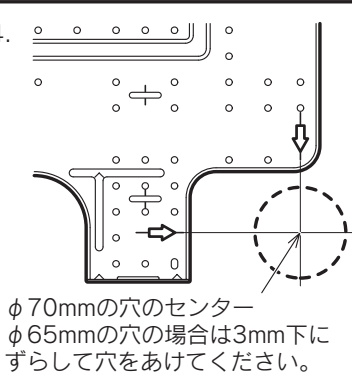
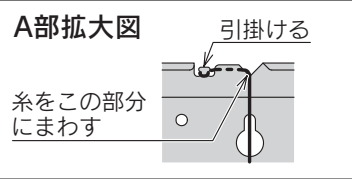
- 雨や直射日光があたりにくく風通しのよい場所
- 室外ユニットの重量に充分耐える場所で振動・騒音が増大しない場所
- 吹き出した風や音が近所迷惑にならない場所
- 「室外ユニットの据付図」の◀印の間隔があげられる場所
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない場所
- 塩害の起きにくい場所
- 硫化ガスにさらされない場所
- アンモニアにさらされない場所
- 水や油の蒸気にさらされない場所
- 積雪により室外ユニットがふさがれない場所
- 吹き出した風が動植物にあたらない場所
- 船舶など移動するものには設置しない

- 消防法および各地域の条例などを満足する場所
- 近くに高温になるようなものがない場所
- 強風があたらない場所
- 水平な場所
- 下や近くに濡れて困る物がない場所

機器の設置

1 取付板の取付けと壁穴の位置決め

1. 柱や桟などをめやすに水平を確認して、取付板をタッピンねじ(1本)で仮止めします。
2. 糸にオモリをつけ、図のように取付板の上側に引掛けて再度水平を確認します。
3. 壁内の構造体(間柱など)を捜して4本以上のタッピンねじで強固に固定します。固定部が弱いと異音の原因になることがありますので、必要に応じてねじを増やしてください。
4. 取付板上の◀の交点から壁穴の位置を決めます。

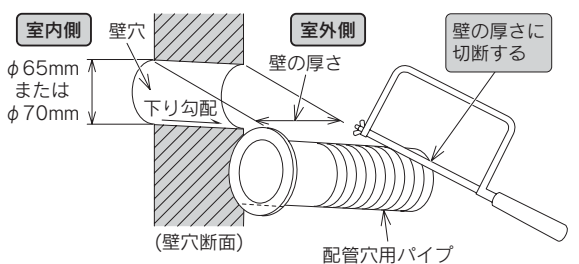


回り縁と鴨居に取付ける場合

- 別売の取付枠を回り縁と鴨居に固定し、取付枠に取付板を固定してください。
- 壁穴の位置は図を参照してください。

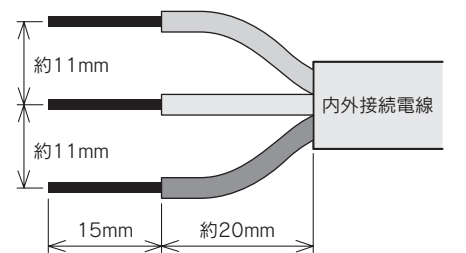
2 壁穴および配管穴用パイプの取付け

- 直径65mmまたは70mmの穴をあけます。室外側に下り勾配となるようにしてください。
- 別売の配管穴用パイプを壁の厚さに合わせて切断し、貫通穴に通します。



3 電線の皮むき寸法

- 内外接続電線は平形ビニル絶縁ビニルシースケーブル(VVFφ1.6mmまたはVVFφ2.0mm)を使用してください。
- 心線は15mm皮むきした後、図の形に合わせてください。15mmより短いと接触不良となり、端子台の温度ヒューズが溶断します。



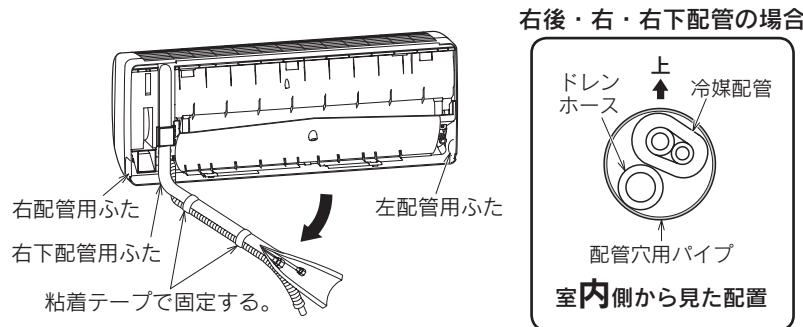
4 室内ユニットの据付け

(裏面へ続く)

右後配管の場合	
A図-1	配管とドレンホースの引き出し
B図	室内ユニットの固定
C図	内外接続電線の引き込み
右・右下配管の場合	
A図	配管とドレンホースの引き出し
C図	内外接続電線の引き込み
B図	室内ユニットの固定
埋込み配管の場合	
●左・左後・左下配管の場合も同様です。	
E図	ドレンホースとドレンキャップの付替え
H図(裏面)	埋込み配管の曲げ
9(裏面)	配管の切断とフレア加工
D図	室内ユニットの仮付け
C図	内外接続電線の引き込み
G図-1(裏面)	配管の接続
以下は室外ユニット配管接続およびガス漏れ検査後行います。	
G図-2(裏面)	配管の接続
F図	配管・電線の収納
B図	室内ユニットの固定

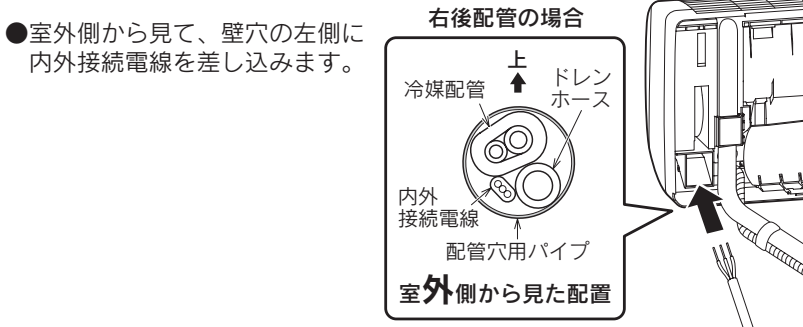
〔A図〕配管とドレンホースの引き出し

1. 配管とドレンホースを引き出し、ドレンホースが下になるように粘着テープなどで固定します。
2. 配管する方向の配管用ふたを金のこぎりなどで切り取ります。



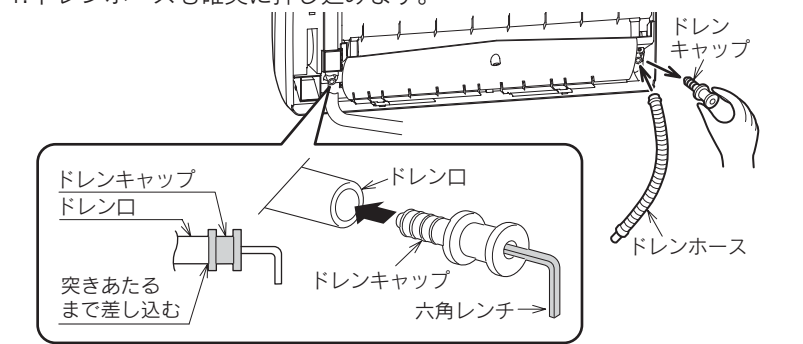
〔C図〕内外接続電線の引き込み

- 室外側から見て、壁穴の左側に内外接続電線を差し込みます。



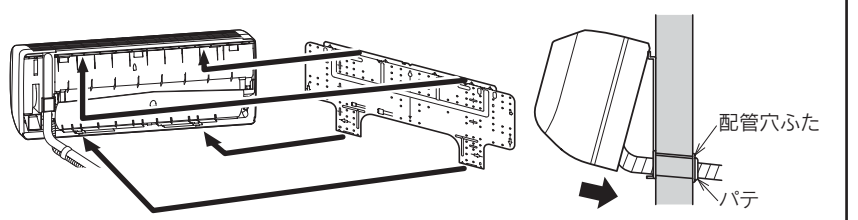
〔E図〕ドレンホースとドレンキャップの付替え

1. ドレンホースを回しながら引き抜きます。
2. ドレンキャップを手でつまんで引き抜きます。
3. ドレンキャップに六角レンチを差し込み、ドレンホースをはずした側にキャップを奥まで確実に押し込みます。
4. ドレンホースも確実に押し込みます。



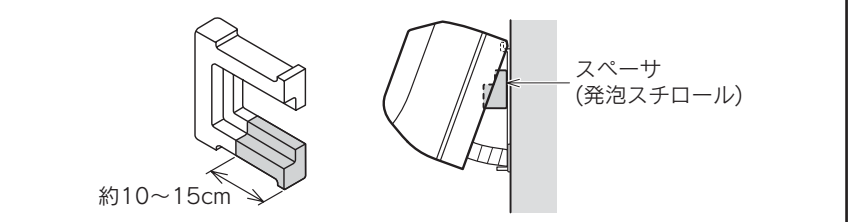
〔B図〕室内ユニットの固定

- 取付板上部の引掛け部に室内ユニットを確実に引掛けます。左右に動かしてみても固定状態を確認してください。
- 室内ユニットの下部を壁に押しつけます。"カチツ"と音がして取付板に室内ユニットが固定されます。
- 室内ユニットのはずし方は「室内ユニットのはずし方」を参照してください。
- 別売の配管穴ふたを取付け、据付工事終了後に別売のパテですきまをシールします。



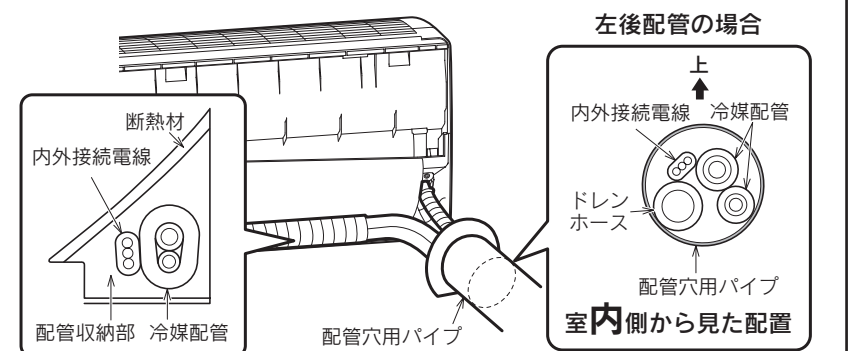
〔D図〕室内ユニットの仮付け

- 室外ユニットの梱包材など(発泡スチロール)を図のように切ってください。
- 切った発泡スチロールをスペーサにして、室内ユニットと取付板の間に入れて室内ユニットを仮付けします。



〔F図〕配管・電線の収納

- 室内ユニットの配管収納部に冷媒配管と内外接続電線を収納します。



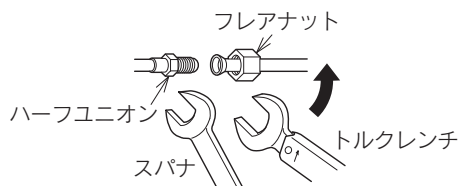
配管の曲げ加工を行うときは、スプリングベンダーなどを使用して配管をつぶさないようにしてください。

4 室内ユニットの据付け

(表面より続く)

〔G 図〕配管の接続

1. 接続配管の中心を合わせてフレアナットを手で充分締めた後、規定のトルクで締付けます。前パネルをはずすと配管接続が容易にできます。
2. 配管接続部は隙間のないように断熱材でおおい、粘着テープで確実に固定してください。
 - 配管の切断とフレア加工は「9 配管の切断とフレア加工」を参照してください。

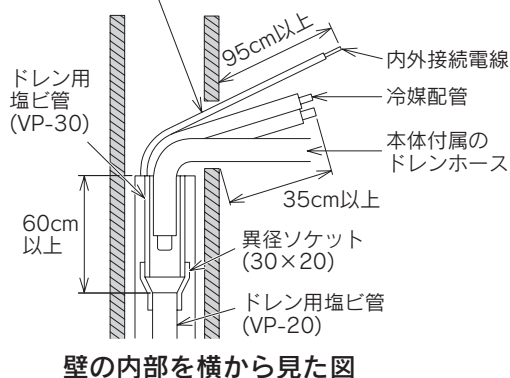


管径(φ)	締付トルク
液側6.35mm(1/4")	18N・m(180kgf・cm)
ガス側9.52mm(3/8")	42N・m(420kgf・cm)

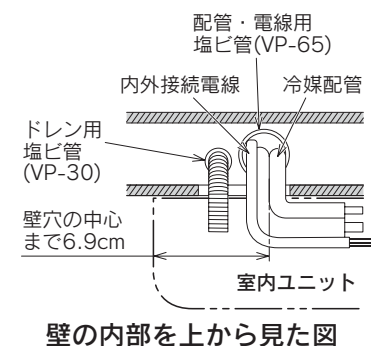
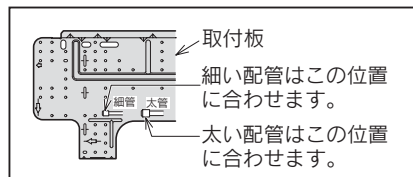
- トルクが強すぎるとナットが割れるなど強度低下や応力腐食割れの原因になることがあります。弱すぎるとガス漏れの原因になることがあります。必ずトルクレンチを使用してください。
- 室内ユニットには冷媒ガスが入っていませんので、フレアナットをはずしても「ブシュッ」という音はしませんが異常ではありません。

〔H 図〕埋込み配管の曲げ

パテまたはコーキング材でシールしてください。



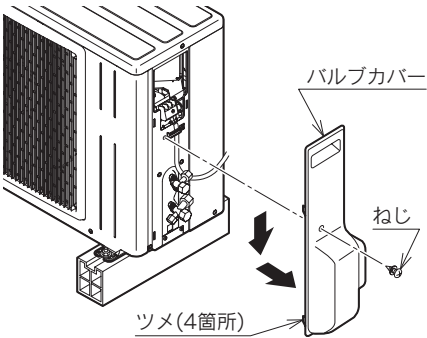
壁の内部を横から見た図



壁の内部を上から見た図

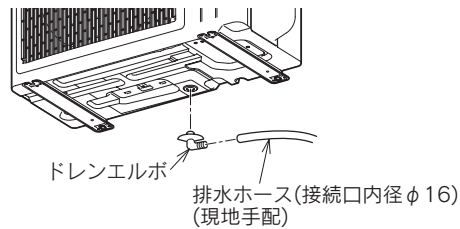
5 バルブカバーの取りはずし

- 右側面のバルブカバーのねじ(1本)をはずし、バルブカバーを下にずらして取りはずします。



6 ドレンエルボの取付け

- ドレンエルボは図のように取付けてください。
- 0℃以下の気温が連続する地域ではドレン水が凍結し、ファンが回らなくなるおそれがありますので、ドレンエルボは取付けてください。



7 内外接続電線の接続

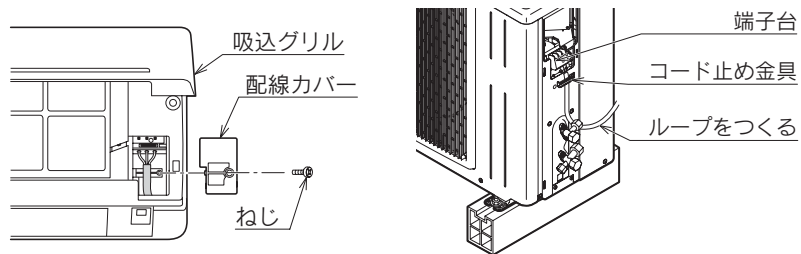
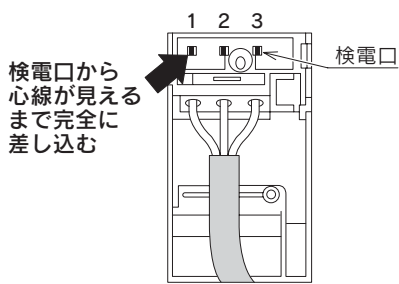
警告

- 内外接続電線を接続後は配線カバーとコード止め金具で内外接続電線を確実に固定してください。接続が不完全な場合は、端子台接続部の発熱・火災・感電の原因になります。

注意

- 皮むきの寸法は15mmです。(「3 電線の皮むき寸法」参照) 短いと接触不良になり、発熱の原因になることがあります。長いとショートや感電の原因になることがあります。

- 内外接続電線の接続は室内外の端子番号をよく確認して行ってください。誤配線をするとう正常な動きができないだけでなく、制御機器が破損する場合があります。
- 内外接続電線は端子台の向きに合わせて、検電口から心線が見えるまで差し込みます。
- 内外接続電線を軽く引張り、心線が完全に挿入されて抜けないことを確認してください。内外接続電線を抜く場合は端子台の□部を⊖ドライバーなどで押しながら内外接続電線を引張ると抜けます。
- 不完全に差し込むと発熱し、端子台の温度ヒューズが溶断します。このときは、機器が全く作動しません。
- 室内ユニット側の配線カバーをねじ(1本)で取付けます。
- 室外ユニット側の内外接続電線をコード止め金具で固定します。



8 アース工事

警告

- アース線の取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従ってください。不備があると感電の原因になります。
- アース線の接続部は室内ユニットの熱交換器の右下と室外ユニットの右側面(三方弁の右下)にあります。どちらかに接続してください。
- ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などにアース線を接続しないでください。

アース線 φ1.6mm(2.0mm²)以上

接地の基準

- 電源電圧・設置場所によって異なります。表に従ってください。

電源	エアコン種類	設置場所	水気のある場所	湿気のある場所	乾燥した場所
対地電圧が150V以下	100Vの機種 (含単相3線式200V機種)			D種接地工事が 必要です。	D種接地工事は 法的には除外 されます。
対地電圧が150Vを超える	3相200Vの機種、および 単相2線式200Vの機種		漏電遮断器を取付け、さらにD種接地工事が 必要です。		

D種接地工事について

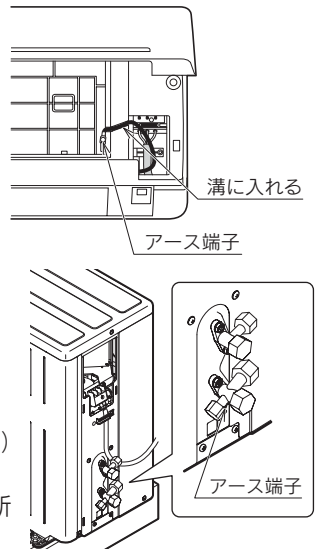
- 電気工事士のかたが行ってください。
- 接地抵抗は必ず100Ω以下にしてください。ただし、漏電遮断器を取付ける場合は500Ω以下であることを確認してください。
- 特にこの機器は周波数変換器(インバータ)を内蔵していますので、静電気による帯電およびノイズを吸収するために、アース工事を行ってください。
- 規定の抵抗値(100Ω以下)にならない場合は、アース棒を増やして規定の抵抗値になるようにしてください。

埋設に適する場所

- 湿気の多い場所

埋設を避ける場所

- 地下埋設物のある場所
(ガス管・水道管・地下ケーブル・引込管など)
- 避雷針や電話のアースから2m以内
- ガス・酸などで腐食するおそれのある場所
- 人通りの多い場所



9 配管の切断とフレア加工

- 配管の切断はパイプカッターで行い、リーマでバリ取りを行います。バリ取りは切粉が配管内に入らないように配管を下向きに行ってください。
- フレアナットを配管に通して、フレア加工を行います。R410A用のフレア加工寸法は従来のR22用とは異なります。R410A専用のフレア加工工具の使用をおすすめしますが、従来の工具でも表の通りに銅管の出し代を調整すれば使用できます。
- フレア加工時の銅管出し代：A

フレアツールリングダイス ※従来のフレアツールを使用してR410A用のフレア加工をする場合は、A寸法を表通りR22のときより約0.5mm多めにし、規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は出し代調整用銅管ゲージ(フレアアタッチメント)を使用すると便利です。

リジット(クラッチ式)の場合 (単位：mm)

管径(φ)	R410A専用工具使用時		従来工具使用時	
	R410A	R22	R410A	R22
液側6.35mm(1/4")	0~0.5		1.0~1.5	0.5~1.0
ガス側9.52mm(3/8")				

インペリアル(ウイングナット式)の場合 (単位：mm)

管径(φ)	R410A	R22
液側6.35mm(1/4")	1.5~2.0	1.0~1.5
ガス側9.52mm(3/8")		

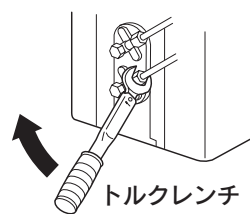
正しい例	誤った例				
内面は光沢があり、傷や凹凸がないこと	傾き	ひび割れ	フレア面傷	偏肉	出すぎ

10 室外ユニットの配管の接続

- 配管の曲げ加工を行うときは、できるだけ曲げ半径を大きくし、スプリングベンダーなどを使用して配管をつぶさないようにしてください。
- ガス側配管(太い管)から接続すると簡単にできます。
- 配管の中にゴミ・砂などの異物や雨水などが入らないように特に注意してください。
- 接続配管の中心を合わせてフレアナットを手で充分締めた後、図のようにトルクレンチで締付けます。

フレア配管接続部の締付トルク

- R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍に高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締付けてください。接続に不備があるとガス漏れだけでなく、冷凍サイクル故障の原因になることがあります。



中心をよく合わさずに無理やり締付けるとねじ山を破損し、ガス漏れの原因になることがあります。

管径(φ)	締付トルク
液側6.35mm(1/4")	18N・m(180kgf・cm)
ガス側9.52mm(3/8")	42N・m(420kgf・cm)

11 エアパーズ「真空ポンプ方式」、ポンプダウン

エアパーズは地球環境保護の観点から「真空ポンプ方式」でお願いします。

- エアコンの冷媒は規定量しか入っていませんので、「真空ポンプ方式」以外でエアパーズを行った場合、能力や省エネ性能が若干落ちる場合があります。
- 真空ポンプはポンプ停止時にポンプ内のオイルがエアコン配管内に逆流しないよう、逆流防止機構のついた真空ポンプを必ず使用してください。
真空ポンプのオイルがR410A用のエアコンに混入すると冷凍サイクルの故障の原因になることがあります。

警告

- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気してください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させないでください。空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付けてください。異常高圧により破裂やけがの原因になります。
- ポンプダウン時に圧縮機を運転したまま二方弁・三方弁を開放状態で冷媒配管をはずすと、空気などを吸入して冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。

エアパーズ「真空ポンプ方式」

- ゲージマニホールドの使用法詳細はゲージマニホールドの取扱説明書をご覧ください。
- ゲージマニホールドのハンドルHiは全開のままで以下の作業を行ってください。

① 三方弁のサービスポートのキャップ・二方弁・三方弁の弁棒キャップをはずし、ゲージマニホールドのチャージホース(低圧側)の突起側をサービスポートに接続します。ゲージマニホールドのチャージホース(中央)の突起側を真空ポンプに接続します。

② ゲージマニホールドのハンドルLoを全開にし、真空ポンプを運転します。
〔低圧ゲージの針が瞬時に真空に到達する場合は①を再確認してください。〕

③ 真空引きを15分以上行い、低圧側のゲージが-0.1MPa(-76cmHg)になっていることを確認します。真空引きが終わったらゲージマニホールドのハンドルLoを全開にして真空ポンプの運転を止めてください。
〔1~2分間はそのままの状態ゲージマニホールドの針が戻らないことを確認してください。フレアナットを増し締めしても針が戻る場合は、再度フレア加工して真空引きしてください。〕

④ 二方弁の弁棒を反時計方向に90°開き、6秒後に二方弁を閉め、ガス漏れ検査をします。

⑤ ガス漏れ検査をします。
〔ガス漏れの場合、配管接続部の増し締めで止まるときは⑥以降の作業を行います。〕

⑥ サービスポートからチャージホースをはずし、二方弁・三方弁を開けます。
(弁棒を反時計方向に軽くあたるまで回します。)

⑦ ガス漏れ防止のためサービスポートのキャップ・二方弁・三方弁の弁棒キャップを締付トルクが急に増加するところよりさらに少し締め付けてください。

⑧ 各キャップを取付けた後、キャップ周辺のガス漏れ検査をします。

ポンプダウン

家庭用エアコンには最大でCO₂(温暖化ガス)3,600kgに相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

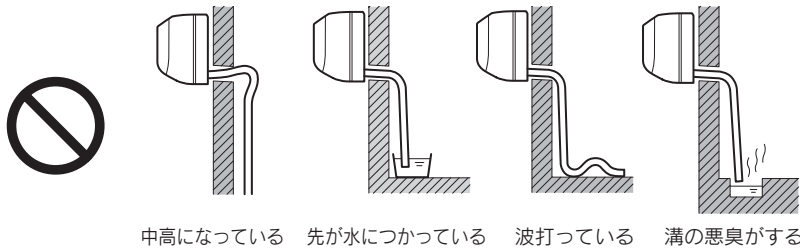
- 増改築・引越し・修理・廃棄などでエアコンを取りはずす場合は、冷媒を大気中に放出しないようにポンプダウンを行い、室内ユニットおよび冷媒配管内の冷媒を回収してください。
1. 二方弁と三方弁の弁棒キャップをはずします。
 2. 強制冷房運転を行います。
〔室内ユニットの応急運転スイッチを押し、「ピッ」とブザーが鳴ってから、そのまま約5秒間押し続け、「ピピッ」とブザーが鳴ってから指を離してください。強制冷房運転をはじめます。応急運転スイッチを約10秒間以上押し続けると強制冷房運転は行われません。〕
 3. 約5分後二方弁を閉めます。
 4. そのまま強制冷房運転を1~2分間行った後、三方弁を閉めます。
 5. 強制冷房運転を停止します。
〔室内ユニットの応急運転スイッチをもう一度押しください。〕
〔「ピッ」とブザーが鳴って、強制冷房運転を停止します。二方弁と三方弁を閉めたまま長時間運転をすると機器の故障の原因になることがあります。〕

12 ドレン排水工事

注意

- ドレンホースは必ず下り勾配にしてください。
- 室内ユニットのドレン皿に水を注ぎ、室外に確実に排水されることを確認してください。
- 断熱していないドレンホースとその接続部が室内にある場合は必ず断熱してください。
- ドレン工事が不確実な場合は室内に漏水して、家財などを濡らす原因になることがあります。

- 次のようなドレン排水は行わないでください。

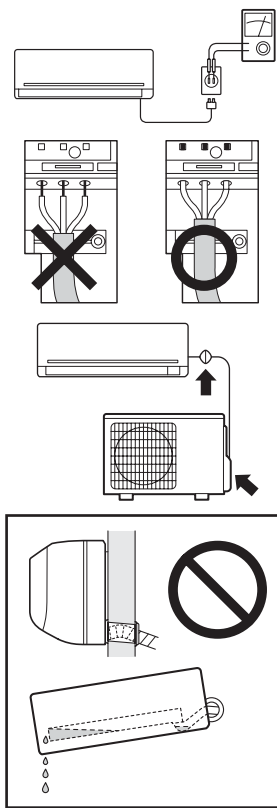


13 工事のチェックと試運転

- お客様に操作方法を取扱説明書でよく説明してください。

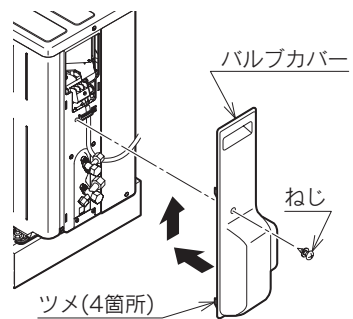
工事のチェック項目 □の中に✓印を入れてチェックしてください。

- 据付場所の選定条件を満たしていますか？
- 電源電圧は規定通りですか？
● 電源プラグを差し込む前に、コンセントの電圧を確認してください。
- 内外接続電線の接続は確実ですか？
● 不完全に差し込むと発熱し、端子台の中の温度ヒューズ(102℃)が溶断します。
- 内外接続電線の端子番号は合っていますか？
- 配管接続部は断熱していますか？
- アース工事(D種接地工事)は行われていますか？
- 二方弁・三方弁を開けていますか？
- 弁棒は全開ですか？
- 配管接続部のガス漏れはありませんか？
● 石けん水などで接続箇所のガス漏れを検査してください。
- 二方弁・三方弁・サービスポートのキャップが確実に締まっていますか？
- 室内ユニットの固定は確実ですか？
- 異常音はありませんか？
- 温度調節はできますか？
- ドレン皿の水がスムーズに流れていますか？



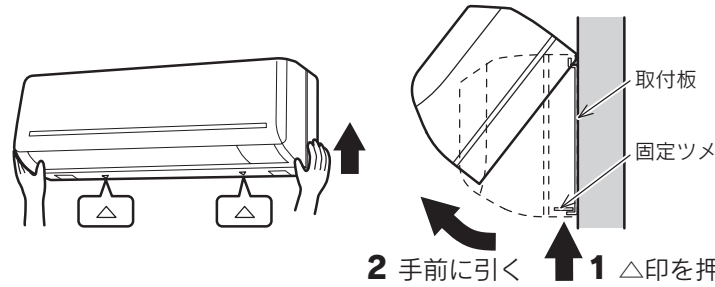
14 バルブカバーの取付け

- 右側面のバルブカバーのツメ(4箇所)を挿入した後、バルブカバーを上を持ち上げ、ねじ(1本)で固定します。



室内ユニットのはずし方

- 室内ユニットを持ち上げ、固定ツメがはずれていることを確認して手前に引いてください。ツメがはずれると簡単に室内ユニットがはずれます。ツメがはずれていない状態で手前に引くとツメが折れることがあります。
- 室内ユニットを持ち上げても固定ツメがはずれない場合は、底部の△印(2箇所)を押すと固定ツメが取付板からはずれます。



住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



● 本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111 FAX(083)248-1906